

ごみ減量・資源化特集

# 生ごみの現状と資源化について

## 町田市のごみ資源化の現状

- ・市内の家庭から出る生ごみは、年間3万トンにも及び、燃やせるごみの42% (2008年) を占めています。
- ・現状では、生ごみを焼却処分していますが、生ごみは肥料やエネルギー原料として活用できる大切な資源です。
- ・市では、生ごみ容器や電動処理機などを利用した、家庭内での生ごみリサイクルを拡げています。家庭での生ごみリサイクルは、市民にとって最も身近な環境保全対策のひとつで、子ども達の環境教育にもたいへん役立ちます。



## これからの町田市のごみ資源化への取り組み

- ・廃棄物減量等推進審議会では、「生ごみ資源化100%を目指し、その優先手法は家庭内での生ごみリサイクル」との方針で検討を進めています。
- ・人口42万人の町田市での生ごみ全量資源化は、他の都市に先駆けた日本初の画期的な方針です。
- ・今後の審議会では、このような生ごみ資源化を目指した具体的施策を検討します。
- ・生ごみを家庭内そして町田市内でリサイクルすることが、「循環型社会」「地産地消」への第一歩です。

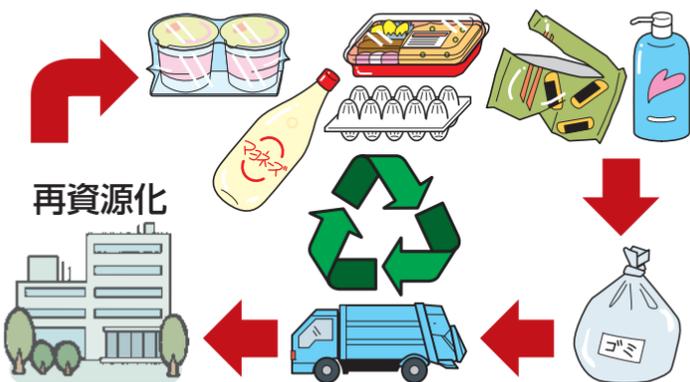
# プラスチックごみの資源化実験を行っています

## 町田市のプラスチックごみ処理の現状

- ・家庭から排出される年間推定約1万5000トンのほとんどが燃やされ、CO<sub>2</sub>を排出しています。
- ・プラスチックごみの約80%が容器包装プラスチックであると推定しています。

## プラスチックごみの資源化の問題点は！

- ・容器包装リサイクル法のルートを活用して資源化するためには、圧縮梱包をする中間処理施設が必要です。
- ・圧縮梱包の工程では、有害物質の発生を検証する必要があります。



### 容器包装リサイクル法とは…

家庭から出るごみの大半(容積比)を占める容器包装廃棄物(容器包装プラスチック・紙製容器包装)を資源として有効利用することにより、ごみの減量化を図るための法律。製造者または販売者が費用の一部を負担して再利用することが法律で義務付けられている。

## プラスチックごみ資源化実験を実施しました

プラスチックごみを収集する際の課題、安全にプラスチックを資源化する方法を探るために、プラスチックごみ資源化実験を実施しました。

- (1)この実験は、2007年に「町田市ごみゼロ市民会議」が提案した軟質のプラスチックを低圧で圧縮する方法を踏襲したもので、低圧圧縮が可能ならば、健康に被害をもたらす有害物質が発生しないのではないかという想定に基づくものです。
- (2)市内5地区の町内会・自治会の約1000世帯にご協力をいただき、3月～5月までの毎週日曜日に容器包装プラスチックごみを収集し、集めたプラスチックごみの圧縮実験を行いました。
- (3)プラスチックの圧縮実験によって発生するガスの中に、有害物質が含まれているかどうかを分析・検証し、結果を公表します。また、ご協力をいただいた市民の皆さんにアンケートを行い、収集の際の課題(収集の頻度・コストなど)を把握します。
- (4)廃棄物減量等推進審議会は、実験の結果と収集の課題を受けて、あらためてプラスチックごみの資源化について審議します。

この特集をご覧になった  
感想・ご意見をお寄せ下さい

廃棄物減量等推進審議会事務局  
環境総務課 ☎797・7112